



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 48 号

R4.2.8

文責 中西 勉



琴の演奏にチャレンジ！

今、本校の4～6年生が、音楽の授業で琴の演奏にチャレンジしています。琴の演奏は、基本的には中学校で体験しますが、岡崎市現職研修委員会音楽部のご厚意により、小学校でも希望をすれば琴を貸していただくことができます。今回は、琴を10張お借りし、本校が所有する2張と合わせて、12張で「さくらさくら」の演奏に取り組んでいます。多くの子が、琴の演奏は初めてになると思いますが、音楽の先生である校務補佐の成田教諭の指導のもと、子供たちが静かな落ち着いた雰囲気の中で真剣に弦を弾く姿は、見ていてとても清々しかったです。



▲真剣な眼差しで琴を演奏する6年生

和楽器に触れながら、古来より日本に伝わる曲に親しむのは、とても貴重な経験になりますね。子供たちは、とても飲み込みが早く、12張の琴の音が美しく調和して、音楽室いっぱい響いていました。



シリーズ「北京オリンピック」① ～“六刀流”でつかんだ銅メダル～

2月4日（金）～20日（日）の17日間の日程で、熱戦が繰り広げられている北京オリンピック。昨夏の東京オリンピックに引き続き、同じ年度内で冬のオリンピックも見られるという史上初のスペシャルな1年に巡り合えたことをとても幸運に思います。そして、東京オリンピックのときと同様に、メダル獲得シーンや競技に向かう選手のひたむきな姿に、大きな感動を感じる毎日です。今回も、そんな名場面の中から、私が心を打たれたシーンを、シリーズで紹介していきたいと思います。

シリーズ第1回は、フリースタイルスキー男子モーグルで銅メダルを獲得した堀島行真選手に注目します。堀島選手は、前回の平昌オリンピックでは、金メダル候補と言われながらも、準決勝で転倒して決勝に進めず、11位に終わりました。その際のインタビューでは、涙ながらに次のオリンピックを目指す旨を語りましたが、堀島選手にはある秘策があったようです。堀島選手は、弱点を克服し、自分の力を最大限に発揮できるようにするために、モーグルに加えてフィギュアスケート、スノーボード、高飛び込み、体操、パルクールという計6種類の競技にチャレンジし、バランス感覚や体幹の強化に取り組んできました。単に気持ちだけで次を目指すというのではなく、“六刀流”の特訓を経てつかんだ銅メダルには、本当に価値があると思います。この堀島選手の論理的な思考とそれを元に編み出された具体的な練習方法は、大いに学ぶところがありますね。男川つ子にも、一見、無関係に思えることの中にも、自分の力を伸ばす鍵があることを、この堀島選手の成功例から学んでもらいたいです。

